

供覽

電

記

事

軍務局

前

長

午

自

至十月廿五日

自十月廿五日

區逐艦磯波航泊誌

時分

寫

機

後

午

時分

0525

日曜水日三十二月一十年四十四治明 (泊碓賀須横) 神歌和至貨須横自

直員姓名	時刻	航程		機器水程儀	針原方基位羅	羅針自差	風候		艦體傾斜	風壓	計雨晴		計暖寒	天候	雲			晴陰比例	波浪	鐘		
		里	分				向	力			時數	附着寒暖計			乾球	濕球	海水溫度				向上層	向下層
平田昇	一																					
	二																					
	三																					
	四							NW	1-2			30.29	57	57	51		0.0		N	10	M	-
平田昇	五																					
	六																					
	七																					
	八							N	1-2			30.29	56	56	51		0.0		"	10	-	
野田清	九	4	00	-	As Reg'd		NE	1-2			30.29	57	57	53		1.0					9	
	十	5	00	-	"		"	1-2			30.28	58	58	53		1.0					9	R
	十一	6	00	-	SWBW		"	1-2			30.28	58	58	53		1.0					9	R
	午正	10	75	-	"		"	2-3			30.27	59	59	55		"					9	
午正	10	75	-	"		"	3			30.25	60	60	56		"					9		

針路	離距路針	海流	緯度		經度		方位及距離		羅針偏差	水	炭	石	員
			時六前午	時六前午	自	實	費	消					
平田昇	一	10 75					3-4	30.23	62	62	58		9
	二	5 25	SWNW			4	30.21	63	63	59	1.0	9	
	三	8 25	SW			4	30.19	64	64	60		9	
	四	11 00	SW			4	30.17	65	65	62		7	
野田清	五	11 25				4.5	30.15	65	65	63		7	
	六	11 25				4.5	30.13	66	66	64	1.0	8	
	七	11 00				5	30.10	67	67	65		9	
	八	11 00				5	30.07	67	67	65		8	
平田昇	九	11 00				5.6	30.04	67	67	65	0.0	10	
	十	11 00				6	30.00	67	67	65	1.0	10	
	十一	11 00				6	29.95	67	67	65		10	
	午正	8 50				6	29.92	68	68	65		10	

前

午

時	分	内容
六	〇〇	總員起床
八	〇五	通稱式ヲ行フ
八	一九	夕山ノ港ヲ出立
八	二〇	夕山ノ港ヲ揚錨出立
八	二二	綾波揚錨出立
八	二八	綾波揚錨出立
八	三八	春兩揚錨出立
八	五〇	原速十哩、半速八哩、微速六哩
八	五二	夕山ノ港ヲ揚錨出立
九	二五	日課手入
		南西微西ニ定針(觀音堂燈台)西ノ微西南ニ二哩ニ見テ
		出立時吃水 前部 八一〇 後部 六一〇

後

午

時	分	内容
一	〇〇	南西微西ニ定針
一	一五	始業、艦隊ヲ存手入
一	二八	南西微西ニ定針
二	五五	南西微西ニ定針
二	三〇	御前燈台ヲ北ノ西ニ見テ正西ニ定針
二	三〇	止業
二	三〇	御前燈台ヲ北ノ西ニ見テ正西ニ定針
二	三〇	夕山ノ港ヲ揚錨出立
四	三〇	夕山ノ港ヲ揚錨出立
		的矢港

日曜金日十二月一十年四十四治明 (泊碇 矢 的) 浦歌和至貨須横自

直 員 姓 名	時 刻	航 程		機 器 水 程 儀	針 原 方 基 位 羅	羅 針 自 差	候 風		艦 體 傾 斜	風 壓	計 雨 晴		計 暖 寒			天 候	雲			晴 陰 比 例	波 浪	鐘 鎖
		里	分				向	力			時 數	附 着 寒 暖 計	乾 球	濕 球	海 水 溫 度		向 上 層	方 下 層	形 狀			
野 田 清	一	5	00	-	No Reg 4		E	5			29.90	68	68	65		O.C.R.Q.			N	10	R	
	二	4	75	-	ESE		"	6			29.87	67	67	64	68/100	"			"	10	"	
	三	5	00	-	"		"	6			29.83	66	66	63		"			"	10	"	
	四	5	00	-	"		ESE	6			29.80	66	66	63		"			"	10	"	
平 田 昇	五	7	00	-	WNW		"	6			29.80	66	66	63		"			"	10	"	
	六	7	50	-	"		"	5			29.81	67	67	64	68/100	B.C.			"	9	"	
	七	10	25	-	No Reg 4		"	4-5			29.82	67	67	64		"			"	9	"	
	八				ESE		"	4			29.83	67	67	64		"			"	9	"	SB 2%
合 人	九																					
	十																					
	十一																					
午正				SE		SE	4			29.83	67	67	64		"			"	8	"		

針 路 直 路 航 路	離 距 路 針	流 海		度 緯		度 經		離 距 及 位 方 真		差 偏 針 羅		水 飲		炭 石	員 病					
		方 向	廿 四 時 間	時 六 前 午	時 六 前 午	自 至 方 位 里	實 測 圓 距 = 針 因 偏 差	費 量 込 燃 ミ タ ル 量 積 現 量	消 費 現 量											
合 人	一																			
	二																			
	三																			
	四			SE	E	2	29.84	68	68	66	BC			8 M						
合 人	五																			
	六																			
	七																			
	八			E	E	1	29.87	67	67	65	OC			10	"					
合 人	九																			
	十																			
	十一																			
午正				N		N	7			29.87	63	63	61	"			"	10	"	

記

事

午

前

時分	内容
〇一〇	安東燈台ヲ艦首(正西)ニ発見ス
〇二〇	司令艇返(艦首)ヲ矢港ニ向テシテ信号アリ
〇三〇	艦位 安東燈台、正東五、五哩
〇四〇	(安東燈台ヲ艦首ニ発見ス)
〇四〇	微速力トナス
〇四五	入港用意
〇五五	入港用意
〇五九	停止 續テ後進微速
一〇〇	前進半速トナス
一〇〇	无舷ニ回頭ス
一一二	前進微速トナス
一二〇	前進最微速(四節)トナス
一三〇	斜路東南東
二〇八	花船艦首ニ航行取リ認ム
四一一	回頭の矢港ニ向テ
五〇二	斜路西北西半速力トナス
五〇二	原速力トナス
七〇四	半速力トナス 次テ微速力トナス 斜路不定
七〇九	春雨波 波トナリテ発見ス
七〇九	直ニ端母ヲ下ニ救助及搜索ニ着手ス
	艦位 (管崎) 東ノ北ニ北
	(安東崎) 東ノ南ニ東
	(龜嶽) 南西ニ西
	航行時間三十二時四十七分 全航程二一〇・五
	水深七尋 底質 泥 磁鐵 三節
	前部 七・六
	後部 六・八

午

後

時分	内容
	午後二時、救助及搜索ニ着手ス
	午後三時、津波ノ発生、氣象報告ヲ添付ス
	● 昨夜の暴風雨
	二十三日早朝より東の強風吹き居りしが、當時の主たる低気圧は仁川沖の七百五十托元山沖及び神羅島西部の沖に各七百五十托の三個にして高気圧はオホツク海にありて七百七十六托を呈れり然れば今朝來強風はオホツク海より日本東海岸に激がり居りし高気圧と朝鮮方面の低気圧の爲めなるべし斯くて午後に至り神羅島西部に在りし低気圧は東北東に進みて大島東方の沖に達し且佐世保附近に七百五十六托の新低気圧發生東進せし爲午後七時頃より津波強風より烈風となり午後九時より午前二時に至り毎秒二十托以上の風吹き居りし後夜より豪雨を伴ひ朝六時頃には約六十托の多量を計れり、而して風は午前四時頃より衰へ初め五時に至り當市に於ける最低氣壓七百六十二托を呈ると共に一日間吹き續きし東風は俄然西風となり低氣壓中心の漸く東に去れるを知りしが爾より再び東風となり風亦稍弱くなりしは前日午後大島附近にありし低氣壓を東に送りしと共に又引續き佐世保附近より東上せし新低氣壓を迎へし爲なるべし然れども低氣壓は大なる威力を振ふことなくして十二時頃北方を經過し去れり之れと共に風は全ク終息し去れり當地方は十一月末に斯る暴風を來せざる事少なく殊に一日通常に東風なりしことは稀れにして一昨日の暴風雨に酷似す而も其時の雨は比較的少なかりし(廿四日午後五時津波報告)
	軍事兵救取止ム

自 至 ( 泊碇 ) 明 治 年 月 日 曜

直員姓名	時刻	航程		機器水程儀	針原方基位羅	羅針自差	風候		艦體傾斜	風壓	晴雨計		寒暖計			天候	雲			晴陰比例	波浪
		里	分				向	力			時	附着寒暖計	乾球	濕球	海水溫度		向	方	形		
																上層	下層	狀			
	一																				
	二																				
	三																				
	四																				
	五																				
	六																				
	七																				
	八																				
	九																				
	十																				
	十一																				
	午正																				

針路直路航路	離距路針	海流		緯度		經度		方位及距離		羅針偏差		水飲		炭石	
		方	向	時六前午	推實	時六前午	推實	自	至	實	測	費	量	消	費
		廿四時間	一時間	午正	推實	午正	推實	方位	里	圖羅 = 針因偏ル差	蒸餾水或ハル現量	現量	現量	現量	現量
	一														
	二														
	三														
	四														
	五														
	六														
	七														
	八														
	九														
	十														
	十一														
	午正														

新

海

一月一日進達

覽

軍務局

艦政本部

人事局

軍令部

第十二驅第四號

一月五日進達

明治四十五年一月五日

第十二驅逐隊先任驅逐艦長海軍大尉小川正冬

局長

左世保鎮時府員長官島村速雄致

驅逐艦春雨遭難二関ハ概括摘要報告

壹通

右提出

第一號

終

各班

大隊長

少佐

中佐

少佐

佐五郎

佐五郎

海

受納銀  
交付一月八日

海軍

艦四  
八-24

0531

小川正冬  
一 概括  
一 地方  
一 本紙

秋田長

冬

自

原

佐

水

軍

海

佐

軍

八

日

軍

1-24

四

1-24

一月五日進達

佐世原  
水軍  
長

月五日

先任驅逐艦長海軍大尉小川正久

長官島村速雄致

心概拈摘要報告

壹通

0531

小川大尉、当時、若くは働你最適切、近時、見所、  
 一、獨断的、久、入港、念、断、終、夜、風、濤、ト、見、セ、ト  
 一、概、番、圖、書、ノ、搜、索、ト、全、力、ヲ、尽、セ、ト  
 一、此、外、搜、索、其、他、ノ、処、置、當、ヲ、得、ル、ト  
 一、地、方、官、民、ノ、對、シ、テ、ハ、尤、モ、切、切、ト  
 一、本、報、告、要、領、ヲ、得、ル、ト

0532



明治四十五年八月五日

第三驅逐隊先任驅逐艦長海軍大尉小川正久

佐世保鎮守府司令長官島村速雄殿

驅逐艦春雨遭難ニ関スル概括摘要報告

一、經過概要

八月廿四日

午前七時の矢入港ノ際始メテ司令驅逐艦春雨ノ管崎ニ擱座  
沈没セシタ見ニ接續後綾波ト共ニ附近村落ヨリ急行セシ救難  
船ノ援助ヲ得テ第一ニ生存者ノ救助ニ着手ス 午後一時生存者

全部收容ヲ終ル

海軍大臣佐世保鎮守府司令長官佐世保水雷團長ニ尤ノ電報ヲ発ス

二十四日午前一時的矢港ニ避難ノタメ入港ノ際春雨管崎ニ擱坐シ中断セラレ沈没ス生存者兵曹長一、下士卒十、九其他不明搜索中

生存者ノ收容ヲ終リ約二百名ノ海女ノ援助ニ依リ直ニ死体ノ搜索ニ從事ス又鳥羽造船所ヨリ派遣セル第十鳥羽九造船所員之ヲ乗組ミテ未着ニ南後引続キ諸種ノ便宜ヲ與フ此ノ日春雨生存者ノ言ヲ綜合シ春雨最後ノ状況ヲ海軍大臣佐世保鎮守府司令長官ニ尤ノ通リ電報ス

遭難者ノ言ヲ綜合シ春雨最後ノ状況ヲ知ルノ尤ノ如シ二十三日日没頃ヨリ天候不穩ニシテ風力頗ニ増加シ波浪

0534

高シ船ノ動揺殊ニ甚シ午前十時高橋折レ驟雨却リニ  
来襲シ知歌浦回航困難ニシテ避泊ノ止ムオキニ至リ遂ニ  
的矢港ニ向フニ決ス

二十四日ニ至ルハ天候愈々険悪トナリ午前五時十分漸ク安  
氣崎燈光ヲ発見スルコトヲ得茲ニ艦伍ヲ確定シ探照  
燈ヲ以テ周囲ヲ照射シ司令以下乗組統負荒天準備  
ニ配置シ見張ヲ嚴シ安氣港口ニ向フ此時風波  
最モ激甚操縦意ノ如クナズ一波浪毎ニ艦体右側  
管崎ニ壓セラレ午前一時遂ニ艦前部ヲ踏礁ニ觸レ  
次テ末ル怒濤ハ機関ノ金力ニ反シテ再び艦尾ヲ擱咥セ  
シムルニ至リ依テ司令ハ直ニ排水ニ從事セシメタルモ更ニ  
効ヲ奏セズ且下ヨリ浸水盛ニテ艦ハ刻々沈下シテ  
止ム最後ニ統負ヲ艦橋附近ニ集メ君ガ代ヲ歌

0535

ヒ陛下ノ萬歳ヲ唱フ此時既ニ端舟始メ止甲板諸附  
 属物ハ洗フカ如ク取去ラレ策負又怒濤ノ多ク家  
 一人モ残ルモノナシ然レモ高萬歳ノ音唱激浪ノ聲響音  
 ニ和スルモノアリシト云フ  
 太夫存者二十名中一名ヲ重傷者ヲ除ク外皆元氣  
 恢復ス

本日收容セル生存者ノ代名九ノ如シ

兵曹長 小倉北勝三次 (軽傷)

三等兵曹 山下源助

公 古賀徳市

二等機関兵 米澤太八 (重傷) 当赤十字病院入院セル

二等水兵 榎木九市藏 (軽傷)

一等機関兵 安藤泰藏 (公)

0536

二等校團兵 林田義男 (全)

全 白石萬作 (全)

從僕 平山勝巳 (全)

一等水兵 平川源太郎

全 富松作太郎

全 藤本金矢

二等水兵 岩永東

全 萩原喜高

一等校團兵 岡部善太郎

二等校團兵 尾崎彌平太

全 田中寛平

全 松崎茂橘

二等校團兵 松原貞興

海

0537

三等機関兵 北村要次郎

計貳拾名

十月廿五日

艦砲射撃演習、又軍艦富士共伊勢灣ニ出動中、既  
逐艦山彦志摩沿岸巡航中、第一艇隊(六十七号、七十  
一号)米接シ第一艇隊ハ主トシテ沿海、搜索ニ山彦志摩  
隊兼真ト快力ヲ死体ノ搜索ニ従事ス。又軍艦富士  
ヨリ借用セシ潜水器(船匠部真三名ト共)ハ主トシテ軍機圖書  
其他重要物件ノ収得ニ従事セシム  
海女約貳百名前日ニ引續キ死体ノ搜索ニ従事ス。  
三重縣廳ヨリ派遣セル神風丸来着、函索引續キ救難  
作業ノタメニ号大ノ便宜ヲ共ハシ。山田赤平字病院救護  
班神風丸ヲ来着ス。

0538

海軍省副官ヨリ遭難前後ニ於ケル十二駆逐隊行動概要  
ヲ向合セアリタルヲ以テ九ノ通リ函電ス

遭難前後ニ於ケル十二駆逐隊行動概要

春雨磯波綾波ノ順序ヨリナル單縱陣ヲ以テ的矢港ニ  
向ヒ針路正西ヲ航行中二十三日午後十時半速力八  
節半トシ二十四日午前零時十分安策崎燈光ヲ船  
ニ発見スルニ及テ司令駆逐艦ヨリ的矢港ニ向フ旨信號  
アリ五十分速力六節トシ港口ニ向針セカ暫クノ  
後春雨ハ機械ノ前進後進頻ニテ航行頗ル困難ナル  
ノ状遠見シ且ツ當時殊ニ風波激甚トナリタルヲ以テ磯  
波駆逐艦長ハ入港頗ル不安ニテ寧ろ天明ヲ待ツニ若  
カサモト判断セリ依テ喜々丸艦ニ回頭及航シ燈光  
信號及無線電信ヲ以テ艦長決心ヲ司令ニ報告

0539

リ同時又後續艦綾波ニ通報セリ綾波配  
 逐艦長モ春雨ノ状況ヨリ同様ニ判断ヨレ磯  
 波ト同時回頭反航セリ。午前一時前後朦朧末  
 襲展望頗ル困難ニテ春雨ノ状況更ニ視ル不能  
 ハサリレモ最早入港投錨シ安菜崎ニ艦影ヲ没  
 シタルモノナルヘキヲ豫想シ終始無線電信ヲ以テ連絡ヲ  
 保持シ状況ヲ知ラレヨラ好ノタルモ更ニ得ル處ナカリキ  
 然レドモ之レ天候険悪艦ノ動搖ノ多シ通信不良ナル  
 モト思考セリ  
 午前四時附近兩艦共ニ針路ヲ反転シ的矢港ニ向ヒ  
 午前六時前後ヲ以テ綾波綾波入港ノ途港  
 ロニ於テ始テ春雨ノ摺吐沁没ヲ知り投錨後救  
 助ニ着手セリ。

0540



十月二十六日

山本横濱賀三向出港。海女ノ死体搜索、潜水器作業

前日ニ公シ

午後三時、佐世保水雷團長鳥羽ヨリ六十七號艇ニ搭乘来着セリ

爾後十月三日迄、公園長指揮下ニ作業ニ從事セリ

鳥羽造船所員本日ヨリ春雨損傷、調査ニ着手ス

本日水雷團長ヨリ海軍次官、佐世保横濱賀西鎮守府参謀長ニ九ノ通リ電報セリ

二十六年後の矢着磯波駆逐艦長ヨリ團長ヨリ概況

報告ス。春雨、煙突四本共止半ヲ露シ、前下リニ略

水平ニ揃咲、士官室附近ヨリ船体七分通リ切レ

船底ハ全部ニ涉リ、岩ニ触レ破孔アリ、周囲ノ水

...

深二十三四尺廿四日以後好意ヲ以テ救助来リ鳥  
 羽造船所負ノ言ニ依リハ引揚ケル見込アリ尚一兩日平  
 穂ノ白アリハ詳細調査ヲ得ル見込本日迄ニ收容セ  
 ル死体三十名陸上寺院ニ收メアリ大灘司令、橋本中  
 尉、吉田機関中尉外下士卒十名ノモハ未カ收容出  
 来ル死体ノ処分ハ特ニ依頼スルモ、外明日ヨリ火葬ニ  
 附ス遭難以來地方官民ノ熱誠ニ援助ヲ受ケツ、  
 アリ本日三重縣知事尉向ノタメ未艦ス

土  
 廿七日

海女、死体搜索、潜水器、作業前日ニ全ジ、六十七號艇ハ附  
 近沿岸ヲ搜索ス

本日ヨリ收容死体、火葬ニ着手ス

土  
 廿八日

海女ノ死体捜索、潜水器ノ作業前日ニ令六十七号艇ハ附近海面ヲ捜索ス

鳥羽造船所算ハ本日ヨリ上甲板大砲ノ揚収ニ着手シ艦尾三吋砲ヲ収得ス

水雷團長尤電報ヲ横須賀鎮守府司令長官ヘ發セシ高其旨海軍次官佐世保鎮守府參謀長ヘ報告セラレタリ

昨日海上穩カキ鳥羽造船所算ガ春兩ノ船体ヲ調査シ

先ニ右舷ノ九舷ニ傾キ前下リニ南向キ吐煙シ右舷四何ノ九

舷三何ノ暗礁ヲ圍ヒ其岩ノ淺キハ四尺深キハ十五尺ニテ

士官室ヨリ後部ノ裂キ目ハ六尺アリ船底ヲ僅カニ接着

シ居リ船首三十六尺許リ(リット)切後色塗ノ下二十八

寸ノ坑アリ其他船底ノ損所ハ未ダ明瞭ナズ附近ノ岩ハ

吐煙ノ跡ヲ見カズ幾分ニ破砕シ士官

皇室部、裂目ヲ繫キ、舷側ニ和船ヲ釣リ、此方  
法ヲ取ラバ引揚ケ得ヘキ見込アリト云フ、水深ハ前部  
ニ五尺後部二十尺アリ至急救助員、泅漕ヲ行フ上  
甲板ノ大砲等ハ今後ノ損害ヲ大ナラシメサルヲ取取ヘス  
鳥羽造船所、手ヲ取外シ、準備ヲ今朝ヨリナシラハリ

委細書面

又海軍大臣ハ九ノ通リ電報ヲ発セラル

今朝無線電信ヲ春兩沈没ノ状態ヲ次官宛報  
告シ置キ、至急横須賀ヨリ全艦救助ノ多人員派  
遣セラレタリ直接上申ス

尚書面ヲ以テ詳細ノ附屬ヲ添ヘ委細報告セリ

十月二十九日

海軍(百余名)ノ死体捜索、潜水器、軍機圖書捜索第一

艇隊、沿岸搜索前日ニ令

鳥羽造船所員昨日引續キ大砲ノ揚収ニ從事シ春雨備

砲全部ヲ收得ス

本日附ヲ以テ小官ニ第ニ駆逐隊司令及春雨砲逐艦長欠員

中其代理兼務ヲ命セラル

十月三十日

第一艇隊、沿岸搜索海女ノ死体搜索前日ニ令潜水器ハ

昨廿九日迄ニ春雨砲士官室及其附近ヲ隈ナシ搜索ニ最卑

其附近ニ何物ヲモ発見スルヲ能ハサルニ至レルヲ以テ本日ヨリキトシテ

被服等ノ引上ケニ從事セリ

鳥羽造船所員ハ発射管一門(英雷装填ノ砲)探照燈縦艇

器吉佃ヲ收得ス

栗橋丸午後三時半入港直ニ春雨砲調査ニ着手ス

0545

青一日

本日ヨリ海ヤ死体搜索ヲ止メ小漢舟約二十隻ヲ管崎附近海面ニ散在セシメ死体ノ浮流又ハ浮出ヲ発見セシムルノ方ヲ取り

水雷艇ノ海面搜索ノ潜水器ノ作業前日ニシテ

坂本横須賀海軍工廠長鳥羽ヨリ六十七號艇ニ搭乗來着意  
土月二十日附ヲ以テ九ノ通リ配員セラル

中軍医 吉田六三郎

免隊ノ駆逐隊附命第士駆逐隊附兼務

三月二日

水雷艇ノ海面搜索ノ小漢舟約二十隻ノ海面搜索ノ潜水

水器ノ作業前日ニシテ

海軍大臣ヨリノ電報ニ依リ佐世保水雷團附大主計山田基純

0546

第士駆逐隊附中士計三宮米三郎ノ職務執行命セラレ  
本日末着ス

十月三日

水雷艇、海面搜索ハ漢弁約二十隻ノ海面搜索潜水器、  
作業前日ニ令ビ而テ之等水雷艇漢弁、海面搜索潜水  
器作業ハ團長本旨限り之ヲ取止メテ水雷艇ハ便宜級横  
途ニ就カレメラル又富士船匠部員ハ第一艇隊ニ便乗級横  
途ニ送メラル。

坂本工廠長級横ノ途ニ就カル

十月四日

水雷團長海軍大臣ノ命ニヨリ上京ノ途ニ就カル

遭難以來連日故ヲ護作業ニ從事志摩郡長以下官公吏  
及海女ニ對シ謝意ヲ表セリ之等ノ人トシテ綾波磯波

ノ二艦ニ招キテ謝辞ヲ述  
ヘ公吏ニ昼食ヲ海女ニ茶菓ヲ  
饗セリ

斯多未登見ノ屍体及軍機圖書等ニ就キ後事ヲ縣ニ轉テ  
縣下一般ニ依頼シ

五月五日

午前綾波ヲ卒業佐世保ニ向ケ出港七日午後佐世保に着ス

ニ春雨処置

妙木水雷團長ノ的矢ニ未着セラレ、マ春雨ノ坐礁状態ニ就キ  
鳥羽造船所員、調査セル有様ヲ海軍次官佐世保横須  
賀両鎮守府参謀長へ電報シ又附番ヲ添ヘテ詳細報告  
レ救助員ヲ至急横須賀ヨリ派遣セラル、義ニ付キ大臣ニ電報  
上申セラレ、第一項ニ述ハタルカ如シ

青廿九日横須賀鎮守府参謀長ヨリ佐世保水雷團長宛テ



左ノ通リ照會アリ

横鎮第三九五號ノニニ

明治四十四年十月二十九日

土屋横須賀鎮守府參謀長

本林佐世保水雷團長殿

春兩引揚ニ関スル件

春兩現状實查並引揚方ニ付別紙第一號ノ通リ海軍大臣ヨリ本  
 府長官ニ訓令相成候ニ就テ、別紙第二號ノ要領ニ依リ本日不  
 取取救難船栗橋丸ニ技術官及職工等ヲ兼セ貴地ニ派遣  
 致シ美余到達ノ止ハ作業實施上何分ノ補助ヲ與ヘラルル様御取  
 計ヲ得度又屍体搜索等ニ関シ貴官ト協議進退スル様  
 命シ置キ候第六十七號及第七十一号水雷艇ハ實際引揚  
 員ノ作業援助ヲ下様訓令セラレ候ニ付自然談任務ニ関

△付余カラ廢大義ト存シ  
 候ニ該作業ノ餘カ  
 六六無端候前ノ任  
 務カニ

シテハ為<sub>レ</sub>得<sub>ル</sub>限<sub>リ</sub>御要求ニ應<sub>ス</sub>ル旨ハ吉談無長等ニ副  
示相成居候条右御了知相成度  
右照會々

別紙第一號

大臣

(終)

横須賀  
鎮守村 司令長官宛

貴官ハ経験<sub>ス</sub>部下職負<sub>ヲ</sub>シテ的矢港口ニ沈没セル春雨、現  
状ヲ實査セシメ適宜<sub>ノ</sub>之<sub>レ</sub>が引揚方取計<sub>ヲ</sub>ベシ  
但<sub>シ</sub>之<sub>ニ</sub>要<sub>ス</sub>費用<sub>ハ</sub>取調<sub>ハ</sub>至急報告<sub>ス</sub>ヘシ

別紙第二號

横鎮第百九十五號ノニ一

0550

明治四十四年六月廿九日

横須賀鎮守府司令長官 野島 出外吉

春雨現狀實查並引揚ニ関スル件

一 六月廿四日の矢港口ニ沈没セシ春雨ノ処置ニ関シ尤ノ痛リ海軍大臣ノ訓令ニ接セリ

海軍大臣訓令 別紙第一號ニ付

ニ 坂本工廠長ハ主任トシ本任務遂行ヲ担任スヘシ

三 工廠長及港務部長ハ急速ニ栗橋丸ヲ準備シ本作業間

坂本工廠長ノ指揮ヲ受ケ進退セシムヘシ

四 本作業間臨時栗橋丸兼貨ヲ別表ノ如ク定ム右兼貨ハニ

十九日夕食前迄ニ兼船スルヲ要ス

五 水雷團長ハ曩ニ的矢港附近ニ滞留セシナタル第六十七號及

第七十一号水雷艇ヲシテ本作業ノタメニ工廠ヨリ特派セル

0551

職責ニ對シ充分ノ幫助ヲ與ヘシムヘシ

右訓令ス

別表栗橋丸臨時乘員表畧ス

右依リ坂本ニ廠長去任トナリ春雨ノ現状実查及ビ之レガ引揚ノ  
々々栗橋丸(指揮官石井少佐)ニ岩野造船中監以下救助員ヲ  
兼セ汝遣セラレタルヲ以テ小宮ト岩野中監石井少佐トノ間於ケル  
牒議ニ依リ春雨ノ船体機関兵器其他兵備及一切ヲ既ニ  
揚収セルモノト未揚収ノモノトヲ向ハズ全部之ヲ栗橋丸ニ引渡シ  
其後整理ニ就キテ一切ヲ依頼スルコトニ決定シ十月三日全部其ハ  
引~~渡~~繼ヲ終レリ。

三軍機保護ニ關スル処置

本件ニ關シテハ当初ヨリ最モ注意シ十月二十四日生存者ノ收容ヲ終ル  
ト今時ニ安東長岡西村長ヲ集メ尤記各項ヲ般ニ四廠達アリ

0552

タキ首要求シ當時之ヲ実行セリ

(1) 漂流漂着物ハ總テ一ハ破片ト魚毛軍艦ノモノタル以テハハズ

破波ニ持ケ来ラシムル

(2) 海ヤハ屍体ノ搜索收容ノミニ從事スル

(3) 普通船舶ハハズ春兩沈没ノ附近ニ立寄ラシメザル

千六百縣事務官志摩郡長、島羽警察署長ニ対シ高先キ

ニ村長ニテシタルト公様ノ要求ヲナセリ

三重縣廳ニ於テハ縣下一般ニ告達シ又和歌山縣、愛知縣、静

岡縣等ニ共際漂着セル物件ハ破片、紙片ノ別ナリ總テ又

容シ三重縣廳ニ送附スヘキ旨照會セリ

高土月五日の矢港ニ際シ志摩郡長、島羽警察署長、

安策長岡西村長ニ尤ノ通り依頼セリ

(4) 漂流物件ハ破片、紙片ノ別ナリ總テ收容後場ヨリ縣廳

0553

ヲ經佐世保鎮守府宛送附ノ

(四) 普通船舟ハ春兩附近ニ立寄ラセ

(三) 人民ハ其ノ附近ヲ作業セ

(二) 絶對ニ何人トモ艦外ニ立入ラセ

尙軍機密書ノ處置ニ關シテハ其詳細ヲ土月十日ノ日附ケ

テ佐世保鎮守府參謀長ニ報告セ

### 四 屍体ノ処置

#### (一) 屍体ノ搜索

春兩ノ遭難スルヤ安樂長岡兩村ノ海女ハ自カラ競フテ屍体

搜索ニ從事シ四十四名ノ殉難者屍体ハ殆ド全部其ノ海女ノ

收容セルモノニテ六十七號、七十一號水雷艇ハ連日附近海面

ヲ航行搜索セルモ屍体▲沿海ニ流出セルモノナカリシヲ以テ一モ

收容スル能ハサリキ。

屍体搜索作業表

月日 搜索ニ従事セルモノ

二四	海女約百名遭難場附近ニ潜水搜索		
二五	全	右	水雷艇沿海ヲ搜索ス
二六	海女約百名遭難場附近ニ潜水搜索ス		
二七	全	右	水雷艇沿海ヲ搜索ス
二八	全	右	全
二九	海女約百名遭難場附近ニ潜水搜索	右	全
三〇	全	右	全
三一	約千隻ノ漁舟遭難場附近海面ヲ搜索ス	右	全
三二	全	右	全
三三	全	右	全

(四) 屍体收容一覧表

海

區

0555

月	日	收客セル屍体	准士官以上	下士官	計	累計	記
二	一	一	一	三	四	四	准士官以上の見玉大尉ナリ
二	五	二	一九	二一	二五	二五	准士官以上の副田中尉三宮中士計ナリ
二	六	二	三	五	三〇	三〇	准士官以上の渡邊軍医行徳機務長ナリ
二	七	二	五	七	三七	三七	准士官以上の大塚中佐吉田松岡中尉ナリ
二	八	〇	三	三	四〇	四〇	
二	九	〇	一	一	四一	四一	
三	〇	〇	〇	〇	四一	四一	
三	一	〇	一	一	四二	四二	
三	二	〇	一	一	四三	四三	
三	三	〇	〇	〇	四三	四三	
三	四	〇	〇	〇	四三	四三	
三	五	一	〇	一	四四	四四	准士官以上の橋本中尉ナリ

0556



右三十四名、行衛不明者、全部溺死セルモ、其戌名九ノ如シ

中 佐大 瀧道助

大 尉 兎玉兼三郎

中 尉 橋本彦七

中 尉 副田三郎

機関中 尉 吉田元治

中 士 計三 宮米三郎

中 軍 医 渡邊哲三

機関兵曹長 行徳與市

一等兵曹 岡崎秀助

二等兵曹 下川與三郎

三等兵曹 芳賀松太郎

0557

一等水兵	三等厨宰	二等厨宰	三等筆記	二等筆記	全	全	全	全	二等校園兵曹	一等校園兵曹	全	三等兵曹
津曲半右衛門	宮下弥	塩水利平太	江口紋藏	別府正次郎	川内半次郎	宮本文六	財前豊治	白土茂	甲斐親照	左藤七郎	大木慶六	黒岩定一

0558

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
高	山	後	横	川	一 等 機 関 兵	中	鎌	安	朝	田	野	坂	一 等 水 兵
江	嶺	藤	山	添	東	津	田	部	倉	中	口	井	坂
正	三	嘉	良	清	條	留	雄	道	國	嘉	嘉	作	次
一	郎	七	成	之	義	一	一	一	一	二	二	一	一
				助	友	郎		親		郎	郎		

0559

三峰機園兵	徳丸秀義
全	中候直記
全	内本政員
全	外本秀一
三峰機園兵	淵田助一
全	貞松助市
一等主廚	西丸繁一
い屍体ノ処分	
<p>         收得セル屍体ハ安策長岡西村民競フテ之ヲ引取り自己ノ寺院          ニ收容シ経帷子ヲ着セシ寝棺ニ緘テ寺院ニ安置セリ。          而シテ其処分ニ就テハ一々電報ヲ以テ其遺族ノ意郷問向          合セラルニ殆レトシ全部火葬ニ附セラルキ旨返電アリ加之時日          シ全過スルハ府政ノ傾向アルヲ以テ廿七日ヨリ安策長       </p>	

0560

岡西村ノ火葬場ニ於テ火葬ニ着手セリ其経過尤ノ如シ

火葬一覽表

月	日	火葬セル数	計	記	事
二	二七	一	一	副用中尉、三宮中士計共内ナリ	
二	二八	一	二	大滝中佐、児玉大尉共内ナリ	
二	二九	四	六	吉岡中尉、渡邊中軍医、行徳中尉、齋長共内ナリ	
三	二	一	七		

本隊の矢立出港後橋本中尉、卒一為、屍体発見セラレ

橋本中尉ノ屍体ハ遺族全地ニ急行火葬ニ附シ卒一為

ノモノハ村民ノ手ニヨリ火葬ニ附セラレタリ、

的矢ニ於ケル遺骨ノ処分尤ノ如シ

一 大滝中佐遺骨 土月日中尉一名ヨシケの矢ヲ東京迄ニ捧持セシム

二 児玉大尉遺骨 土月某日の矢ニ於テ遺族ニ引渡ス

三 副軍尉遺骨	土月早生者ヲ其の矢ヲ御園金沢ニ捧持セシム
四 三宮主計遺骨	土月廿九日の矢ニ於テ親族ニ引渡ス
五 渡邊中軍医遺骨	土月廿九日の矢ニ於テ実兄ニ引渡ス
六 下士吉名遺骨	青花日の矢ニ於テ其家族ニ引渡ス
<p>屍体発見者四十四名中六名遺骨ハ的矢ニ於テ遺族等ニ引渡シ或ハ之ヲ其ノ郷里ニ捧持セシメ吉田機関中尉以下三名若ノ遺骨ハ破波ヲ佐世保ニ持テ取り水雷團廳舎内ニ祭壇ヲ設ケテ此些安置シ佐世保ニ於テ海軍葬儀ノ後埋骨希望ノ人々ハ皆其遺骨ヲ引渡セリ</p> <p>斯等各地ヲ海軍葬儀希望者及遺骨ヲ奉ル受取ニ来テルモノ合計二十六名ハ土月廿六日各地ヲ海軍葬儀ヲ行ヒ後遺骨送附希望ノ人々ハ本隊下士卒ヲシテ各々之ヲ郷里ニ捧持</p>	

セシノ茲殉難者遺骨全部ノ処分ヲ終リ

(二) 葬儀

五月十日吉地ニ海軍葬儀ヲ希望シ及ビ遺骨ヲ未ダ受取  
ニ来ラサル人ニ海軍葬儀ヲ吉地ニ施行セリ其氏名九ノ如シ

中尉 橋本 庚 七

中尉 吉田 元 治

中軍醫 渡邊 哲 三

外下士卒 貳拾参名

計 貳拾六名

葬儀ハ午前一時吉地水雷團出棺鎮守府司令長官以下  
部内多数人々会葬セシ又部外ヨリハ長崎縣知事以下ノ  
会葬アリキ行列壯嚴ヲ極ム

而シテ吉日宇海軍墓地ニ埋葬セシ殉難者氏名九ノ如シ

中尉 橋本 茂七

檜中尉 吉田 元治

中軍 渡邊 哲三

醫官 芳賀松太郎

藥劑官 河内半次郎

計五名

五湖下賜ニ係ル祭料並御菓子料ノ処置

驅逐艦春雨遭難ノ事 天聽ニ達シ

聖上

皇后西陛下ヨリ殉難者共法存者ニ對シ夫レ祭料又ハ

御菓子料、御下賜アリ森水雷團長參内之ヲ拝受置

族及員僚者ヲ代表シ御禮ヲ申上ケラレ大滝中佐三宮

中士計ノモハ東京ニ於テ直接之ヲ遺族ニ附セラレ貴族ノ



当地ニ来着セルモノハ團長ヨリ聖旨ヲ傳ヘテ下附セラレ遺族ノ  
当地ニ来ラサルモノハ其旨ヲ詳記セル別紙ヲ添ヘテ遺滑ト共ニ  
郷里ニ捧持下附セシメラレ又遺滑ノ已ニ引渡シテ終ヒルモノハ止  
ヲ得ズ為替ヲ以テ之ヲ交付セラレタリ。

六慰問品帶申慰金受領及慰問者ノ來訪

春兩ノ遭難スル其附近官民ノ厚意同情ハ非常ニシテ  
之レガ為メ得ル便宜甚大ニシテ久保田三重縣知事ヲ始メ  
トシ或ハ慰問シ或ハ慰問品申慰金ヲ贈共スルモノ甚カク  
其由ガ別表ノ如シ

別表ニ載ル慰問者及物申慰金申贈者及共數書ヲ載ス

(別表ハ末尾ニ添フ)

七慰問者等ニ対スル謝禮ノ件

慰問品申慰金等ノ寄贈者ニ対シテハ水雷團長ノ名ヲ以テ夫

ル謝状ヲ送ラレタリ

ニ当地葬儀ニ有リ公葬者ニ對シ去ル人々ニハ小官翌日夫々  
回禮シ遠隔ノ地及其他ノ人々ニハ謝状ヲ送レリ

ハ春雨遭難ニ關シ審問ノ件

春雨遭難ニ關シホク水雷團長主任トナリ小官綾波艦長

兼春雨生存者ニ對シ審問ヲ行ハレタルガ其結果ハ先キニ

水雷團長ヨリ送達セラル佐水團機密第一七五號ノ如シ

九生存者ノ処置

生存者兵曹長小倉藤三次ハ土月七日ヨリ佐世保鎮守府

附テ命セラレ水雷團長ノ命ヲ受ケテ服救カスヘキ命ヲ受ケタリ

重傷者米沢左ハ山田赤十字病院ニ入院治療中ナリレカ病

院及附近官民ヨリ非常ニ厚意ヲ受ケテ土月十六日全治退

院シ十八日陸路収隊セリ

0566

前記遭難ニ関スル審問結了シト等生存セル下士卒ハ士月廿  
三日ヲ以テ全部敷設隊利根ヲ薩摩等ニ転勤命セラレタリ。  
一の矢港沿岸村民ニ海軍大臣ヨリ表謝ノ件

春雨遭難ニ際シ附近官民ノ~~ノ~~尽力熱誠ヲ極メタル可  
~~ニ~~述ノ如クナルモ其最タルモノハ~~ニ~~安築長岡的矢三村ニテ殊ニ安  
築長岡西村ニ直接救ヲ護作業ニ從事シ村民ハ其生業ヲ顧  
ミサコト一週余白ニ及ビ殉難者ノ~~ノ~~筋骨火葬等ニ金四ノ費  
スコト~~ノ~~ナカラス

海軍大臣ヨリ左ノ~~ノ~~謝状及謝金ヲ贈與セラレタリ

謝状

三重縣志摩郡 長岡村

各通 三重縣志摩郡 安築村

三重縣志摩郡 的矢村

右明治四十四年十月廿四日三重縣志摩郡長岡村管崎海岸ニ於テ駈逐艦春雨ノ災厄ニ遭ツテ金村等テ義勇奉公ノ精神ヲ發揮シ故難善後ノ事ニ盡シ悴セラレタル深ク満足スル所ナリ依テ茲ニ謝意ヲ表ス

明治四十四年十月五日

海軍大臣 野澤 實

謝金

長岡村へ金参百五拾円

安楽村へ金参百五拾円

右ハ青土日本林水雷團長ヨリ久保田三重縣知事ヘ九書状ヲ添ヘ配付方依頼セラレリ

本林水雷團長ヨリ久保田三重縣知事ニ宛

先般参上ノ際ニ御取計ヒ願置矣海軍大臣ヨリ安楽

長岡西村小學校へ寄附相成へ千金六百円別紙為替ヲ  
以御送附申上候間前記西村小學校へ海軍大臣ヨリ寄  
附旨閣下ヨリ書面ヲ添へレ御交附相成度  
右齊依頼ス

右ニ對上月廿日久保田三重縣知事ヨリ金六百円受領海軍  
大臣ヨリ安業長岡西村小學校へ寄附旨今知事ヨリ書  
面ヲ添へ交附セル旨回答アリ。

(附記)

一、葬儀等費用一時弔慰金ヲ以テ支辨シ置弔慰金分  
配ハ今高松配送金ニ兼ルモアリテ他日更ニ決兼分配  
ヲ行フ事定ナリ

二、佐世保水雷團長以下数名發起ヨリ海軍部外ニ准士官  
以テハ俸給ノ百分ノ一以下士卒ハ應分ノ醵金ヲ募リ費

族ノ弔慰ニ書ツルヲ奉行中ナリ

(終)

0570

別表 慰問品

品名	数量	住所氏名
菓子	一缶	安養村青年會副會長 佐山千吉
清酒	一樽	六十十七號 船
莫大小襦衣	二十枚	志摩尚武會
菓子	三折	安養村在郷軍人團
巻紙外日用只	十四只	厚志中學校三重支部 日永海員救済會三重支部
ビスケット	二百五十枚	加茂村在郷軍人分會
郵便端書	百枚	長岡村松道尋常高等小學校職員四行
菓子	五百個	長岡村 榎森岩次郎
郵便端書	百枚	島羽町
菓子	百枚	島羽町在郷軍人分會

0571

小倉餅	幾	千	島羽町旅館主人分會長 <small>海軍少佐</small> 小川水路
菓	十	袋	的矢在伊軍人園
出野菜	一	組	長岡村國崎在伊軍人會
林	一	籠	三重縣志摩郡的矢村木村 <small>田新八</small>
菓	三	箱	京都市本町通四丁目 秦 吉馬藏
野	一	足	志摩郡磯部村長坂本出太郎
菓	二	包	的 矢 村
菓	二	包	安 兼 身 常 高 等 小 學 校 職 員
菓	各	二十包	甲斐村分會長 向井 篤三 郎
菓	三	枚	安 兼 身 常 高 等 小 學 校 職 員
菓	四	樽	安 兼 身 常 高 等 小 學 校 職 員
清酒	百	樽	東河川水産株式会社
菓	六	包	島初造船所營業科 奇長 龍井 宗太郎
菓	六	包	長岡村 國崎 青年 會

0572



粟	粟	粟	粟	生	禪	瑞	藪	藪	藪	藪	瑞	艘	慰問品	
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
二十八折	三十折	一折	二折	一折	二十折	百折	百五十折	二十折	二十折	二十折	二十折	二十折	二十五折	
古市郡磯部村其子船長前日甚之助	志摩郡五神村從場	長岡郡磯部村其子船長前日甚之助	伊勢郡磯部村其子船長前日甚之助	長岡村大字畔崎区	長岡村神四神社之寺家白九寺御	長岡村大字畔崎区	三重縣會	長岡村大字畔崎区	長岡村神四神社之寺家白九寺御	三重縣會	島羽造船所營業部長梶井宗太郎	的久村尋常高等小學校職員八岡	長岡村和道尋常高等小學校出徒	國崎尋常小學校職員

密	イワヨシ	結門	結門	瑞	瑞	瑞	瑞	瑞	瑞	瑞	瑞	瑞
柑	箱入	袋	袋	書	書	書	書	書	書	書	書	書
二	二	二十三	七十七	五十	一	二	二	二	二	二	二	二
箱	箱	個	個	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚
志摩郡加茂村安善島丹幸少邊後	右 公安善島丹幸少邊後	志摩郡加茂村安善島丹幸少邊後	志摩郡加茂村安善島丹幸少邊後	長岡村平儀古寺大田佐七物	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右	長岡村相善漢葉組右同産葉組右

0574

袂

紗

五十一

四

三

縣

高

等

女

學

校

(遺)

校)

海

軍

0575

早 慰 金

金五圓

長岡村在郷軍人分會

金參圓

加茂村在郷軍人會

金貳圓

大津郡 南林養老場 森 正 要 助  
真珠打屋所 見 賴 辰 年

金拾圓

三重縣津市高砂町十四番屋敷伊藤三十八外右

金參圓

三重縣志新保村青年會六村會

金四圓

三重縣志新保村青年會六村會

金參圓

志摩郡神前村長友助役 中北新三郎  
尾崎 太郎 君

金壹圓

志摩郡神前村在郷軍人會

金壹圓

右 五 青年會

金參圓

志摩郡磯部村北川區青年會切會

金參圓

志摩郡磯部村志利屋青年會切會

金五圓

志摩郡人會宇治山田市報事部

金五圓

愛媛婦人恩徳友部

金五圓

愛媛県産層部振武會

金五圓

宇治山田市振武會

金拾圓

志摩新鏡陣村役場

金八圓

石術學校 湯池大尉 以下

金拾圓

鏡材赤城邑青年會

金拾圓

神部婦人恩徳友部 宇治山田市二俣町

金拾圓

宇治山田市青年恩徳友會

金拾圓

志摩新青峯山

金五圓

志摩新國分村婦人分會長 寺坂才次郎

金拾圓

志摩新研究會 森 辰 平

金拾圓

長崎縣愛媛婦人會支部

金拾圓

三重縣一志郡青峰会上村支會

金拾圓

三重縣一志郡青峰会上村支會

0577

全四回

三重縣一志郡竹原村青平會津六支部

全於回

三重縣四日市市高砂町甲藤子  
外回名

全百出於回

愛知県婦人會長河部篤子

全出於回

三重縣志摩市氏會

全百出於回  
全出於回

三重縣南勢新報社募集

此慰金今尚送り来ルモノナリ

慰問者 五七九

志摩郡安永村

石原 町吉

三重縣度會郡長

今村 英橘

三重縣度會郡長

今村 順子

三重縣志摩郡長

西塚 芳吉

愛國婦人會三重支部志摩支部長

西塚 マン子

三重縣事務管内務部長

堀田 優次郎

志摩郡  
安永町長  
事務管内務部長

津島 井吉  
堀田 誠

三重縣屬

大井 順之助

三重縣松阪町長

大村 福五郎

岸田山田市幹事部長

北川 十子

島羽町長

柳田 幸市

津島警察署長

川島 助吉

長海軍被檢煙三重支那幹事

島羽造船所營業部長

三重縣屬

志摩郡國府村長

山田縣國婦人會三重支那幹事

三重縣屬副議長

三重縣屬

三重縣警部保安課長

三重縣知事

愛國婦人會三重支那部長

三重縣事務官

長吉市字三重支那事務幹事

島羽警部署長

川松武治

梶井宗太郎

藤田千代史助

田口辰五郎

竹内マツ

佃安之丞

永井米吉

河井英太郎

久保可政園

久保田フニ

山宮 耀

山田 覺治

松永 信隆

0580



宇治山田市長

島田造船所社長

山田島田婦人會特別會負幹事

島田東洋水産株式會社社長

三重縣志摩郡長岡村相長

長岡村相長 医師

長岡村相長

長岡村相長

外八十九名

北川 短

菊 沢 席

水 村 寛 子

石 原 川 吉

植 瀬 寺 知 尚

櫻 森 岩 次 郎

中 村 嘉 加 助

岡 本 六 之 助

0581

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0582